

## 事業計画書

事業名		コミュニティ駄菓子屋事業
団 体	名称	倉敷東学区社会福祉協議会
	住所	倉敷市福島 5 2 9 - 3 (会長宅 = 事務所)
	遂行責任者	会長 辻 正男

## 1 団体の目的

本会は、倉敷東小学校区を活動地域とし、地区内の社会福祉問題を解決するために、様々な活動動を展開することにより、地域福祉を中心としたまち作りを目的とする。

## 2 事業の分野

\* 次のいずれか該当する分野に☑をしてください（複数選択可）。

☑保健、医療又は福祉の増進    □社会教育の推進    ☑まちづくりの推進  
 観光の振興    農山漁村又は中山間地域の振興    学術、文化、芸術又はスポーツの振興  
 環境の保全    ☑災害救援    ☑地域安全    □人権の擁護又は平和の推進    □国際協力  
 男女共同参画社会の形成の促進    ☑子どもの健全育成    □情報化社会の発展  
 科学技術及び学術の推進    経済活動の活性化    職業能力の開発及び雇用機会の創出  
 消費者保護    団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助

## 3 現状と課題

## (1) 地域の状況や市民ニーズ

倉敷東学区は高齢化率が平均 25%以上、地域によっては 40%以上と、倉敷市全体の平均よりも高い地域である。平成 25 年 5 月にこの東学区に地区社協が設立されこれまで 3 年間、「高齢の方々だけではなく、子育て中の母親や子供さん達に対しても、必要なところに福祉の手が届いていないのではないか」の考えを元にまずは高齢者を対象にアンケート調査も含めた地域の実態調査を重ねてきた。調査では一人暮らしの高齢者たちから「訪問を喜ばれ、会話を望まれているけれど、なかなか遠くまでは行けないようだ」と報告に示されたことから、ご近所にて独居高齢者が集える居場所作りが求められると考え、これまでに、生きがい作りを兼ねて東町をモデル地区とした一つの例として高齢者を店番その他の準備等に巻き込んだ「駄菓子屋」を月 1 回開いてきた。

( 2 ) 本事業で取り組む地域課題

上記の取り組みで、従来のサロン以外にも高齢者が参加出来る新たな展開の可能性が示されつつある。なお、訪問して来る子どもたちは他町内の、かつ町内会にも入っていないマンションからの訪問者も数多くいるのが実情である。一方、町内会によってはマンションコミュニティの繋がりが希薄であり、いざという時のサポートに不安を持つ人も出てきている。従ってこの事業での取り組みを地域内の他町内に展開するなかで、地域のなかでの人のつながり、支え合いの意識が醸成され、ゆくゆくは町内会や社協活動にも関与して貰えれば地域の活性化にも繋ぐことができるものと考えます。

地区社協では各種事業を組んで実施し、その活動あるいは調査の中でこれまで見えなかった地域の課題が上がってきたが、新たな課題の解決を進める人的余力も予算捻出も難しい状況であるが、新たな地域活動の担い手となりえる人材の発掘、育成を目指す。

4 目的と概要

( 1 ) 事業の目的

地域の高齢者が集まることのできる新たな場所作り、店番等での生きがい作り、小中学生(購入者)、大学生(企画・世話人)等、若者などとの世代間交流を通じての地域の活性化。

( 2 ) 事業の概要

現在、東町で実施中の駄菓子屋とは、高齢者も参加しての地域の子どもを相手にした駄菓子販売店であり、定期的に関店している。事業もようやく軌道に乗りつつあるこの地域での月 1 回の駄菓子屋を平成 29 年度は他町内(例えば幸町町内会)に発展展開させる。「店舗」は町民会館も一つの候補と考えており、地域内の高齢者が駄菓子屋に来て店番を務めることで、高齢者の外出と役割の機会を創出し、社会参加を推進することとなり、ひいては介護予防につながるものである。

毎回の運営には、当該町内会に属する高齢者が店番としてあるいは資材準備に関わることで参加し、また学生や大人もこれに加わることで町内の色々な世代での交流を図る。

## 5 受益者と効果

### ( 1 ) 事業の受益者

高齢者及び子どもたち : ( 町内にお住まいの高齢者の居場所作りが主体であり、その意味では最大の受益者は町内の高齢者であるが、楽しみが増える子どもたちも受益者である )

### ( 2 ) 事業の実施に期待する効果

高齢者が駄菓子屋という場所を居場所として、店番や運営参加をとおして役割を担い、社会参加できるようになり、地域でのつながりや絆が生まれること、生きがいや楽しみの創出により、高齢者の介護予防につながることを期待する。

さらに地域のコミュニティに不参加の傾向が強い住民と子どもさんを通じて顔の見える関係ができれば、災害時等の不測の事態に対しても対応がスムーズに行くものと考えます。すなわち、高齢者同士のつながりを期待するだけでは無く、子どもや親の世代の交流も生み出す場になれば地域の安心・安全にも繋がるものと期待している。

また、この取り組みの遂行に際し、市の他団体・他地区との人的交流を図ることにより、学区外の新たな場所で高齢者の居場所作りに繋ぎうるモデルになるものと考えます。

## 6 団体の能力

### ( 1 ) 団体が持つ能力

当地区社協には様々な業種から理事に就任願っており、また協力団体として川崎医療福祉大学の教師や学生とも密接な関係がある。

### ( 2 ) 能力の活用

これまでの 3 年間で広報活動も含む活動で、地区社協の認知度も上がってきていると感じる。調査と立案の力も付いてきたので、この上に人的・経済的支援を新たに受けることができれば、地域の更なる活性化をより強固に図ることができる。将来的には、東学区の取り組みが市との協働で他学区に広がることを期待し、また学区内では組織が壊滅的な阿知地区にも展開したい。

## 7 事業内容とスケジュール

### ( 1 ) 事業の具体的な内容

東町に習い、毎月一回（第一土曜日以外の土曜日）に「駄菓子屋」を開き、地域住民が交流出来る場を作る。準備は、学生や町内会で担当し、店番には地区の年配者に担って頂く。

高齢者の生きがい・居場所作りのために、駄菓子を購入しようと訪れる子どもたちとの接触を通して、その親年代の若者との交流ができることが狙いである。高齢者には駄菓子販売の店番を分担願うだけではなく、品物を包む袋の作成等にも取り組んで貰う。

関係性が築かれれば、年配者の智恵を活かした昔遊び等のイベントも開催する。具体例として、竹トンボ、けん玉遊び等を学生や子どもたちと楽しんだ後は、伝授された若者が子どもと遊ぶことも可能である。なお市との協働のもと、ボランティア人材の育成に関し生活・介護支援サポーター養成講座受講生の「活動団体体験実習」対象先としてその経験を生かして戴くことを考えている。

### ( 2 ) 事業のスケジュール

4～5月	準備期間（地域説明会、関係者顔合わせ、事業計画確認、役割分担等）
6～8月	駄菓子の販売、地域住民が集まり交流出来る場の開設
9月	駄菓子の販売、昔遊び等で世代間交流
10月	駄菓子の販売、計画の確認と見直し
11～3月	駄菓子の販売、生活・介護支援サポーター等活動団体による体験実習

様式第 2 号

8 目標

内容	現状	目標値
高齢者の居場所・生きがい作り 他地区・他町内への展開	サロンがあるのみ(地域外 の高齢者も多い)	・地域内の高齢者の参加は従 来サロン参加者数の 20%増 を目指す

9 受益者負担 団体の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

徴収する (見込み: 駄菓子代 )

徴収しない(理由: \_\_\_\_\_ )

10 事業の見通し

東町地区での運営ノウハウを生かし、収益を次の駄菓子購入及び謝礼金に回す体制を一年かけて確立し、町内で独立した運営ができるようにする。次年度はさらに他町内へ展開し、希薄となっている町民同士の交流活性化を図る。

11 他団体との協力

- ・倉敷東学区コミュニティ協議会、町内会
- ・川崎医療福祉大学およびその卒業生
- ・倉敷中部高齢者支援センター
- ・倉敷東小学校

12 行政との協働 自主事業コースの団体は記入不要です。

\* 協働する市担当部署の名称, 役割, 協議をした日及び内容を記入してください。

- ・倉敷市 健康長寿課
- ・市の他地区への展開のための人材育成・確保を含めた協働
- ・協議した日: 平成 28 年 10 月 21 日、11 月 2 日、11 月 11 日

## 収支予算書

## 1 収入の部

科目	内訳	金額(円) <sub>2</sub>	積算根拠
受益者負担		150,000	売上 ¥15,000 * 10 回 (仕入 15% 上乘せ)
会費からの繰入		0	
その他		0	
市補助金		241,000	注: 収入 - 受益者負担分
収入合計		391,000	(支出合計と一致)

## 2 支出の部

科目	内訳	金額(円) <sub>2</sub>	積算根拠
人件費(会員) <sub>1</sub>		0	
交通費(会員) <sub>1</sub>		0	
人件費(アルバイト等)		183,000	¥760 * 5 時間 * 12 回 * 4 人
謝金(講師等)		0	
旅費交通費(講師等)	倉敷-中庄往復	19,000	¥190 * 2 * 12 回 * 4 人
消耗品費		145,000	年間駄菓子購入費(仕入 ¥13,000/回 * 10 回)、袋、テープ、事務用品
印刷製本費		20,000	催し時のチラシ 2 回
通信運搬費		0	
保険料		0	
使用料・賃借料		24,000	¥2,000 * 12 月(含準備期間 2 ヶ月)
外注費・委託費		0	
対象経費計		391,000	
食糧費		0	
人件費		0	
その他		0	
対象外経費計		0	
支出合計		391,000	(収入合計と一致)

1: 会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の 1 割を上限とする。

2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。